Pioneer sound.vision.soul

5.1chサラウンド・システム

HTP-S2

お使いになる前に
各部の名称とはたらき
接続
基本操作
サラウンド再生
サラウンドの設定
応用操作
その他

インターネットによる登録のお願い

http://www3.pioneer.co.jp/

お買い上げの製品について、上記URL「お客様のページ」でお客様登録をお願いします。

この「お客様のページ」は、お客様とのコミュニケーションを目的としたウェブサイトです。新規登録されたお客様にはID・パスワードを発行させていただき、新製品のカタログや取扱説明書のダウンロード、メールマガジンの購読など各種サービスをご利用いただけます。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意（絵表示について）

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 機器本体の⏻STANDBY/ON ボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

⚠ 警告

異常時の処置

プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

プラグを抜け

● 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

● 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

禁止

● 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

禁止

● 着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意：付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

水ぬれ禁止

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

風呂場・シャワー室での使用禁止

● 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

100V以外禁止

● 表示された電源電圧(交流100ボルト50/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

禁止

● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

水ぬれ禁止

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

ぬれ手禁止

● ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

禁止

● 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

分解禁止

● 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

禁止

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

接触禁止

● 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

必ず行う

● 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

禁止

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

禁止

● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

禁止

● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

注意

● 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

禁止

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

禁止

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

プラグを抜け

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

禁止

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

注意

- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

→送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
→BS、CS放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取りつけてください。

禁止

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

禁止

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

禁止

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

禁止

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

手の挟みこみに注意

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

注意

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

プラグを抜け

- 旅行などで長期間、ご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(−)の向き)に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を取り出せ

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

禁止

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

注意

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

プラグを抜け

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

もくじ

お使いになる前に

各部の名称とはたらき

接続

基本操作

サラウンド再生

サラウンドの設定

応用操作

その他

本文中の表記について

この取扱説明書では以降、本文中に記号が記載されています。記号には次のような意味があります。

- 2ch　2ch 音声で収録された CD などの入力ソースを示します
- マルチ　マルチチャンネル音声で収録された DVD などの入力ソースを示します
- 2.1ch　ステレオ再生を示します
- 5.1ch　マルチチャンネルサラウンド再生を示します

本機の特長

最新のサラウンドに対応

◆ ドルビーデジタル、DTS デコーダー搭載(38 ページ)

ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録されている映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生することができます。映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽に楽しむことができます。

◆ MPEG-2 AAC デコーダー搭載(38 ページ)

BS デジタル放送のサラウンド音声もマルチチャンネルサラウンドで楽しむことができます。

◆ ドルビープロロジック II 回路搭載(38 ページ)

2チャンネルステレオ音声やドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもマルチチャンネルサラウンドで楽しむことができます。

簡単設置・簡単操作

◆ ルーム設定でリスニング環境の簡単設定(20 ページ)

本機のルーム設定ではお部屋のサイズ(ルームサイズ)や視聴位置(リスニングポジション)を選んでサラウンド環境を簡単に改善することができます。このルーム設定では「難しい」と思われがちなホームシアターの設定も簡単に行うことができます(ご自分でより細かく設定することもできます)。

◆ ワイヤレススピーカーで簡単設置（14 ～ 17 ページ）

リアスピーカーは、ワイヤレスで置き場所に悩むことなく、簡単に設置することができます。

◆ アンプ部にワンタッチスピーカー端子を搭載（11 ページ）

ワンタッチスピーカー端子とカラーコネクター付きスピーカーコードにより簡単に接続ができます。

バラエティ豊かなホームシアター

◆ 豊富なサウンドモード(28 ページ)

映画や音楽だけでなく、テレビやゲームなど、お聴きになるソフトに合わせたサウンド効果を加えることができます。

◆ お手持ちのヘッドホンで、マルチチャンネルサラウンド音場再生を実現(27 ページ)

ドルビーラボラトリーズ社の開発したヘッドホンバーチャル（仮想）サラウンド技術『ドルビーヘッドホン』により、お手持ちのヘッドホンで、マルチチャンネルスピーカーで聞いているような臨場感あふれるサラウンド効果を楽しむことができます。

◆ ドルビーバーチャルスピーカー対応(22、31 ページ)

ドルビーラボラトリーズ社の開発した最新のバーチャル（仮想）サラウンド技術『ドルビーバーチャルスピーカー』により、サラウンド効果を楽しむことができます。

◆ 高音質ワイヤレス伝送

「2.4GHzデジタル伝送方式」により、CD 並の高音質を実現しています。また、『ダイレクトディフューズ*』音場技術を搭載することで、コンパクトなワンボディでありながら、よりリアルなサラウンドを実現しています。

*『ダイレクトディフューズ』とは、スピーカーユニットを最適な角度にレイアウトすることで音を天井や壁に反射させ、直接音だけでなく間接音を効果的に利用した臨場感あふれる音場を作り出す当社独自の音場技術です。

環境に優しく

◆ 省エネルギー設計

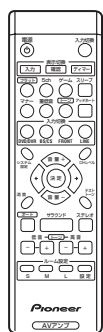
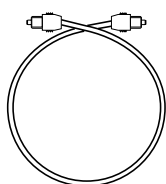
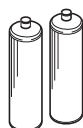
アンプ部は、待機時(スタンバイ時)消費電力を 1W 以下に抑えた設計となっております。

▼ ご覧になりたい項目を早く見つけたいとき
「目的別索引」⇒ 43 ページ
「各部の名称とはたらき」⇒ 9 ～ 12 ページ
「故障かな？と思ったら」⇒ 41 ～ 43 ページ

お使いになる前に

付属品を確認する

[VSA-S2 アンプに付属]

リモコン× 1

光デジタルケーブル× 1

単３形乾電池(R6P)× 2

- スピーカーコネクター× 2
- 保証書
- 取扱説明書(本書)

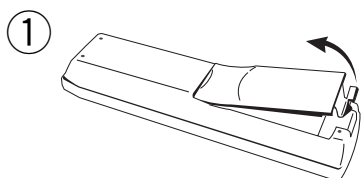
[S-S2 スピーカーシステムに同梱]

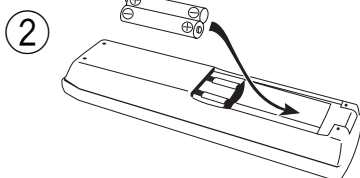
- スピーカーコード
  5m（赤色コネクター付き）× 1
  5m（白色コネクター付き）× 1
  5m（緑色コネクター付き）× 1
  5m（紫色コネクター付き）× 1
- 壁掛け金具 × 2
- ネジ× 4
- 滑り止めパッド（小）× 8
- 滑り止めパッド（大）× 3

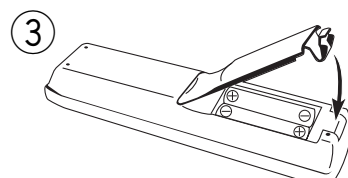
[XW-S2　ワイヤレススピーカーシステムに同梱]

- オーディオコード× 1
- AC アダプター× 1
- 電源コード× 1
- コーションラベル× 1

リモコンに電池を入れる

①

裏ブタのタブを押しながら矢印の方向へ開く

②

ケース内に表記されている極性 ⊕(プラス)/⊖(マイナス)を合わせて乾電池を正しく入れる

③

フタを矢印の方向に閉める

注意

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(１カ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

メモ

▼ リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

設置について

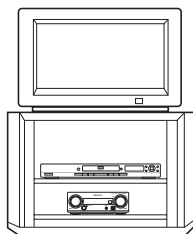
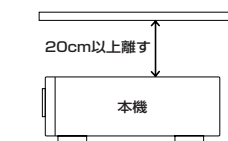
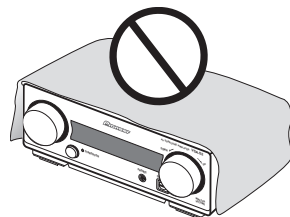
アンプおよびワイヤレススピーカーを設置する場所について

振動や衝撃が加わらない、水平で安定した場所に設置してください。以下のような場所への設置は避けてください。

- テレビやカラーモニターの上
  (映像が乱れたり、歪んだりすることがあります *1。)
- カセットデッキなどのそば
  (カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器を本機のそばで使用すると雑音などを発生する場合があります *1。)
- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱のあたる所(台所など)

*1 *これは、アンプのトランスによるリーケージフラックス(漏れ磁束)の影響によるものです。このようなときは、設置する場所を変えるか、これらの機器を本機から離して設置してください。*

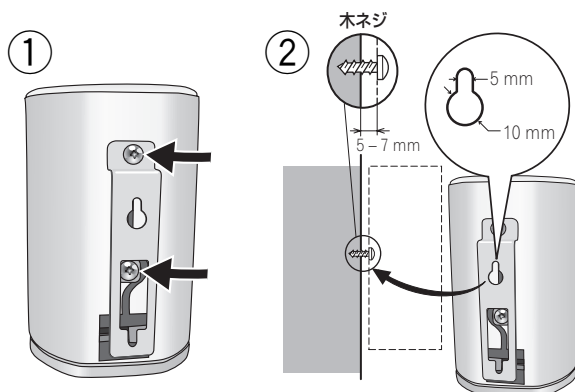
アンプおよびワイヤレススピーカーの放熱について

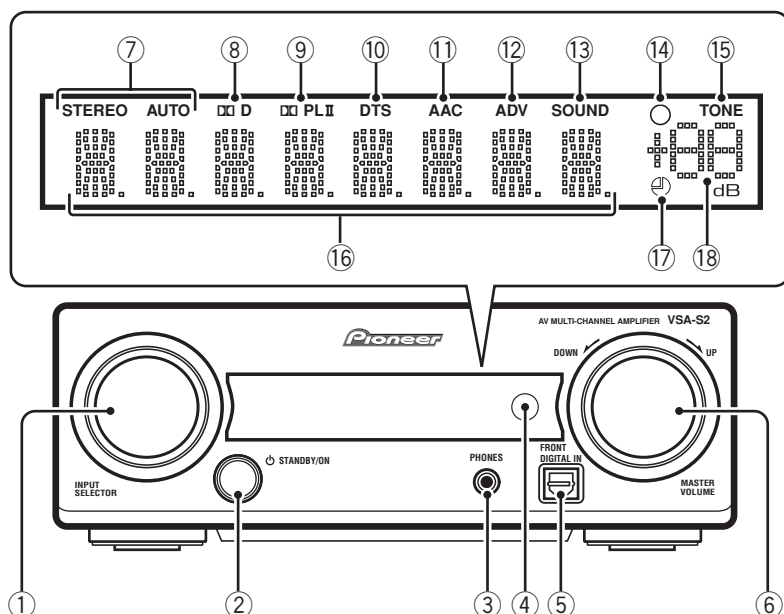
- 本機は下面および上面の通風孔から空気を取りこみ、放熱用ファンを使って後面の放熱孔から放熱する設計になっております。本機の下には布などを敷かないでください。また後面、上面ともに十分なスペースをとってください。ラック等に設置する場合は放熱のため、後部が開放されているラックを使用するなど、通風を妨げないようにしてください。また、放熱孔がホコリでふさがれてしまうと放熱が十分にされなくなりますのでご注意ください。
- 本機をラックに設置するときは、前面にドアのないラックをお勧めします。ドア付きラックに設置して本機をお使いになるときは、使用中のみドアを開けるなどして通風を妨げないようにしてください(ドアを開けてお使いになるときはぶつかってケガなどしないように十分お気を付けください)。
- 本機をラックなどに設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。(ワイヤレススピーカーは天面から10cm以上、背面から10cm以上、側面から10cm以上空間をあけてください。)

- 本機は使用中に熱を発生します。本機の上には物をのせないでください。
- 本機は使用中に熱を発生します。インテリア用の布などをかぶせた状態でお使いにならないでください。
- 本機使用中または使用直後は上面が熱くなっていることがありますのでご注意ください。

スピーカーを壁に取り付けるには

① 下図の向きで壁掛け金具を取り付けます。
- このとき壁掛け金具がしっかり付くように、確実にネジを締めてください。

② スピーカーを壁に取り付けることができます。
- 壁に取り付けるためのネジは付属していません。柱や壁の強度や材質に合わせたものを使用してください。
- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。

- 設置・据え付け場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。

- 据付け・取付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、弊社は一切責任を負いません。

各部の名称とはたらき

本体前面部

①**INPUT SELECTOR(入力切換つまみ)(18ページ)**
入力機器を選びます。

②**STANDBY/ON ボタン**
本機の電源を ON/OFF します。

③**PHONES(ヘッドホン)端子**
ヘッドホンプラグを差し込む端子です。プラグを差し込んでいるときは、スピーカーから音が出ません。

④**リモコン受光部**
正面7m以内の距離からここに向けて操作してください。
直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

⑤**DIGITAL IN (デジタル入力)端子(13ページ)**
光デジタル音声出力端子の付いている機器とデジタル接続します。

⑥**MASTER VOLUME(音量調節つまみ)(18ページ)**
本機の音量を調節します。

⑦**STEREO インジケーター(25～27ページ)**
「ステレオ」モードを選んでいるときに点灯します。
AUTO インジケーター(25～27ページ)
「オート」モードを選んでいるときに点灯します。

⑧**D インジケーター**
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。

⑨**PLII インジケーター**
ドルビープロロジックII 処理されているときに点灯します。

⑩**DTS インジケーター**
DTS 信号を入力しているときに点灯します。

⑪**AAC インジケーター**
MPEG-2 AAC 信号を入力しているときに点灯します。

⑫**ADV インジケーター(26～27ページ)**
「ドルビーバーチャルスピーカー」「ドルビーヘッドホン」を選んでいるときに点灯します。

⑬**SOUND インジケーター(28ページ)**
「サウンドモード」を選んでいるときに点灯します。

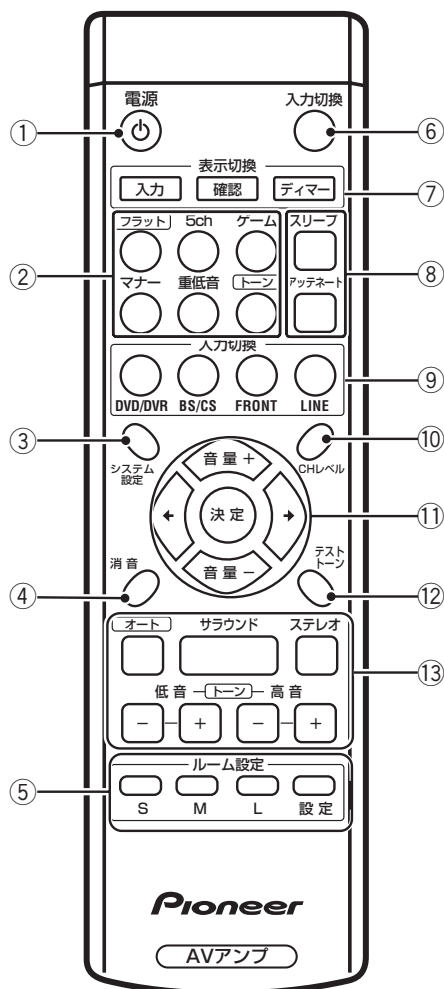
⑭**o インジケーター**
デジタル信号を入力しているときに点灯します。

⑮**TONE インジケーター(28、33ページ)**
「トーン」モードを選んでいるときに点灯します。

⑯**キャラクター表示部**

⑰**インジケーター(35ページ)**
スリープタイマーを設定すると点灯します。

⑱**VOLUME(音量レベル)表示部(18ページ)**
現在の音量レベルを表示します。音量レベルは、電源をOFFにしても保持されます。「－－－dB」は最小レベル、「00dB」は最大レベルを表します。

リモコン

①**電源⏻ボタン**
本機の電源をON/OFF(スタンバイ状態)にします。

②**フラットボタン(28ページ)**
サウンドモードをOFFにします。
5chボタン(28ページ)
5chステレオモードをONにします。
ゲームボタン(28ページ)
ゲームモードをONにします。
マナーボタン(28ページ)
マナーモードをONにします。
重低音ボタン(28ページ)
重低音モードをONにします。
トーンボタン(28、33ページ)
トーンモードをONにします。

③**システム設定ボタン(23、30～33ページ)**
ワイヤレスモード切り換え、各スピーカーまでの距離の設定、ドルビーバーチャルスピーカー設定、ダイナミックレンジコントロール設定、デュアルモノ設定を行います。

④**消音ボタン(35ページ)**
音を一時的に消します。もう一度押すと消音機能は解除され、元の音量に戻ります。

⑤**ルーム設定ボタン(20ページ)**
ルーム設定モードに切り換わります。各スピーカーの音量(チャンネルレベル)とスピーカーまでの距離を調整します。

⑥**入力切換ボタン(18ページ)**
本機の入力を切り換えます。押すたびに入力が切り換わります。

⑦**表示切換ボタン**
ディスプレイの表示を切り換えます。
入力(34ページ)
選択されている入力と、入力されている信号の種類を表示します。
信号の種類は以下のように表示します。
「1ch」:モノラルのデジタル信号
「DUALMONO」:デュアルモノの音声信号
「2ch」:ステレオのデジタル信号
「MULTIch」:デジタル信号のマルチチャンネル信号
「ANALOG」:アナログ信号
確認(34ページ)
選択されている入力に選ばれているリスニングモード、サウンドモード、ワイヤレスモードを表示します。
ディマー(35ページ)
表示部の明るさを3段階で調整します。

⑧**スリープボタン(35ページ)**
スリープタイマーを設定します。30分、60分、90分、またはOFFに設定することができます。
アッテネートボタン(35ページ)
音量を下げます。

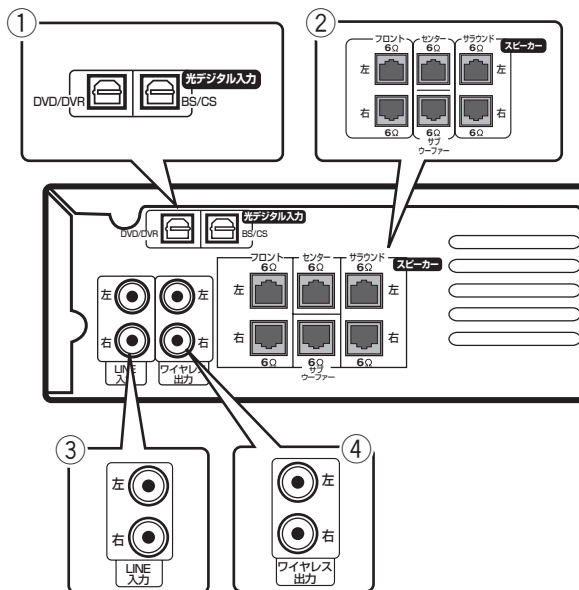
⑨**入力切換ボタン(18ページ)**
本機の入力を切り換えます。

⑩**CHレベル(36ページ)**
手動(テストトーンを出力しない)でスピーカーを切り換えて、各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

⑪ ← →ボタン
各種設定で項目を選びます。
音量＋ / －ボタン(18 ページ)
本機の音量を調節します。
決定ボタン
各種設定で項目を決定します。

⑫ **テストトーン(29 ページ)**
テストトーンを出力して各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

⑬ **オートボタン(25 ～ 27 ページ)**
入力信号の音声フォーマットに合わせて、ステレオ(2.1ch再生)モードと5.1chデコードモードを自動で切り換え、ソフトに忠実な再生を行います。
サラウンドボタン(25 ～ 27 ページ)
マルチ 音声で収録されているソフトはそのまま再生します。2ch 音声で収録されているソフトはドルビープロロジックII技術によってサラウンド再生します。2種類のモードから選択することができます。
ステレオボタン(25 ～ 27 ページ)
「ステレオ(2.1ch 再生)」モードに切り換えます。
トーン低音－ / ＋ボタン(33 ページ)
トーンモードの低音を調整します。
トーン高音－ / ＋ボタン(33 ページ)
トーンモードの高音を調整します。

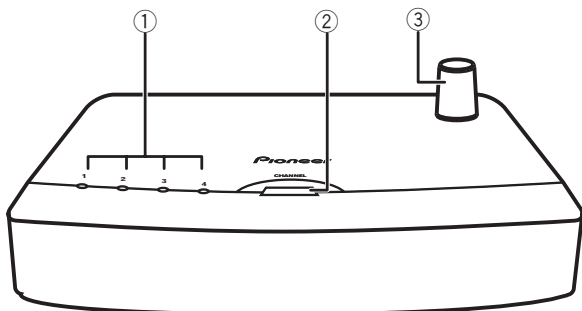
本体後面部

① **デジタル音声入力端子(13 ページ)**
光デジタル音声入力端子
(光 1「DVD/DVR」、光 2「BS/CS」):
光デジタル音声出力端子を持つデジタル機器と接続することができます。

② **スピーカー端子(14、16 ページ)**
スピーカーと接続します。

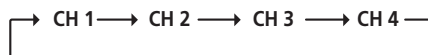
③ **LINE 入力端子(13 ページ)**
アナログ音声入力端子
アナログ音声出力端子を持つ機器と接続することができます。

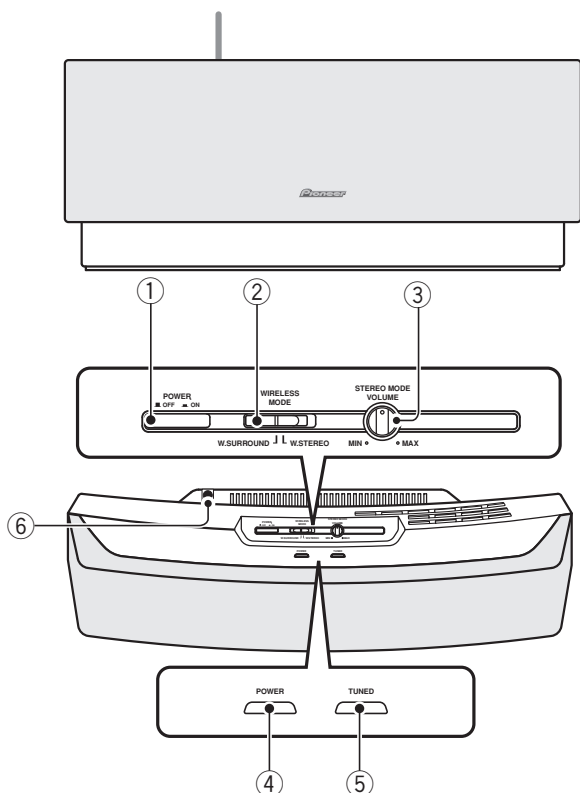
④ **ワイヤレス出力端子(14 ページ)**
トランスミッターと接続します。

各部の名称とはたらき

トランスミッター

① **チャンネルインジケーター**
②のチャンネル選択ボタンによって選択された周波数チャンネルが点灯します。

② **チャンネル選択ボタン**
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を4つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなることがあります。押すたびに以下のように切り換わります。

→ CH 1 → CH 2 → CH 3 → CH 4 →

③ **アンテナ**
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

ワイヤレススピーカー

① **電源ボタン**
ワイヤレススピーカーの電源をオン / オフします。

② **WIRELESS MODE スイッチ**
ワイヤレススピーカーを5.1ch再生のサラウンドスピーカーとしてお使いになるときはスイッチを「W.SURROUND」側に入れます。ステレオスピーカーとしてお使いになるときはスイッチを「W.STEREO」側に入れます。（23 ページ）

③ **STEREO MODE VOLUME ノブ**
WIRELESS MODE スイッチを「W.STEREO」に切り換えて、ステレオスピーカーとして使っているときのみ音量を調整することができます。

④ **POWER インジケーター**
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

⑤ **TUNED インジケーター**
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

⑥ **アンテナ**
トランスミッターからの音声信号を受信します。

メモ

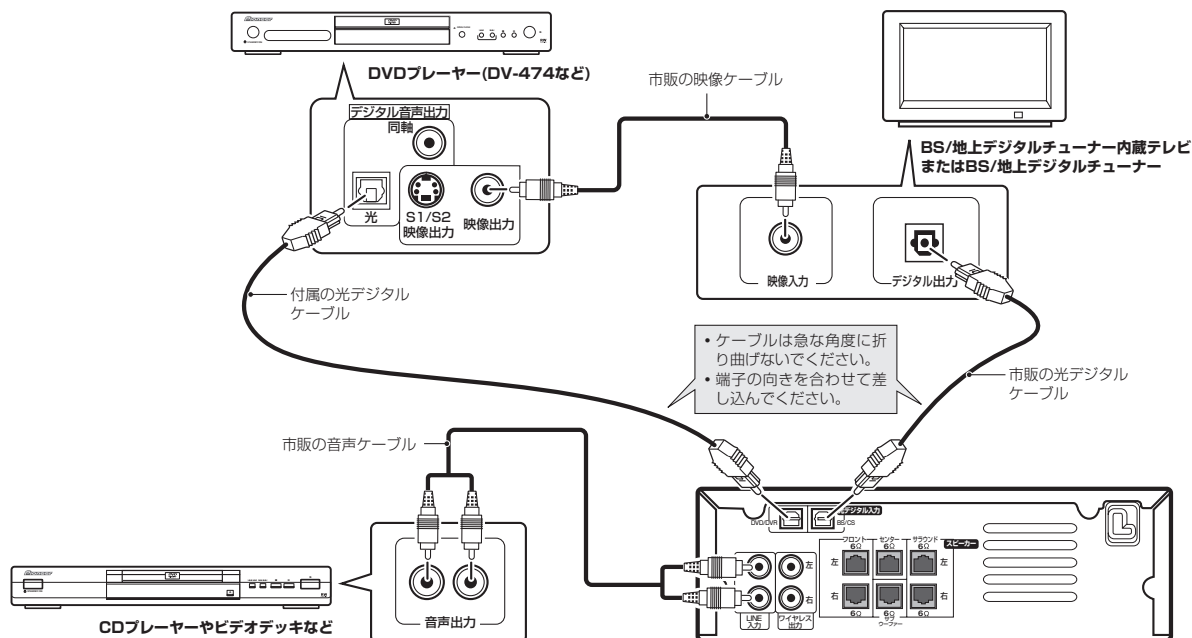
▼ 本システムを使用しないときはワイヤレススピーカーの電源はオフにすることをお勧めします。オンの状態ですとワイヤレススピーカーの冷却ファンが回り続けます。

注意

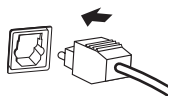
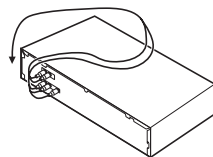
- WIRELESS MODEスイッチが、「W.SURROUND」に設定されているときは、STEREO MODE VOLUME ノブで音量を調整することはできません。本機の MASTER VOLUME で調整してください。

接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードやACアダプターをコンセントから抜いてください。

各機器を接続する

注意

- **接続コードの状態について**
  右図のように、本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスからの磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合があります。接続コードはこのような状態にしないでください。

- **光デジタルケーブルを差し込むときの注意**

接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。

本体前面入力端子に接続する

スピーカーを接続する

トランスミッター

カラー
コネクター

カラーコネクターの色と同じ色のスピーカー端子へ差し込みます。
スピーカー端子は上側と下側とで向きが異なるためカラーコネクターの向きを確認して差し込んでください。

スピーカーコードのカラーチューブの色と、スピーカーのリア部に貼られてあるラベルの色を合わせます。

付属のスピーカーコード X 4

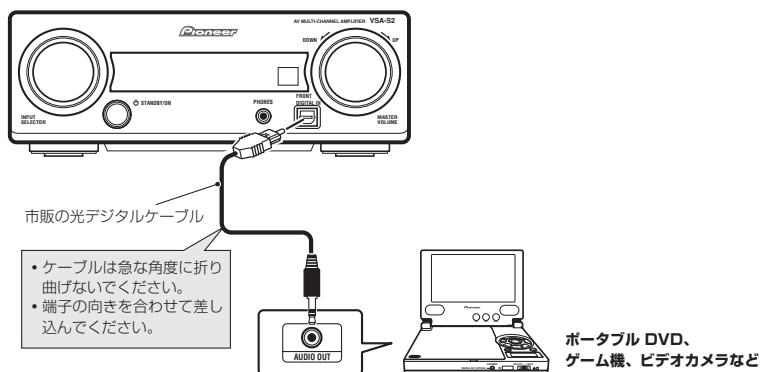
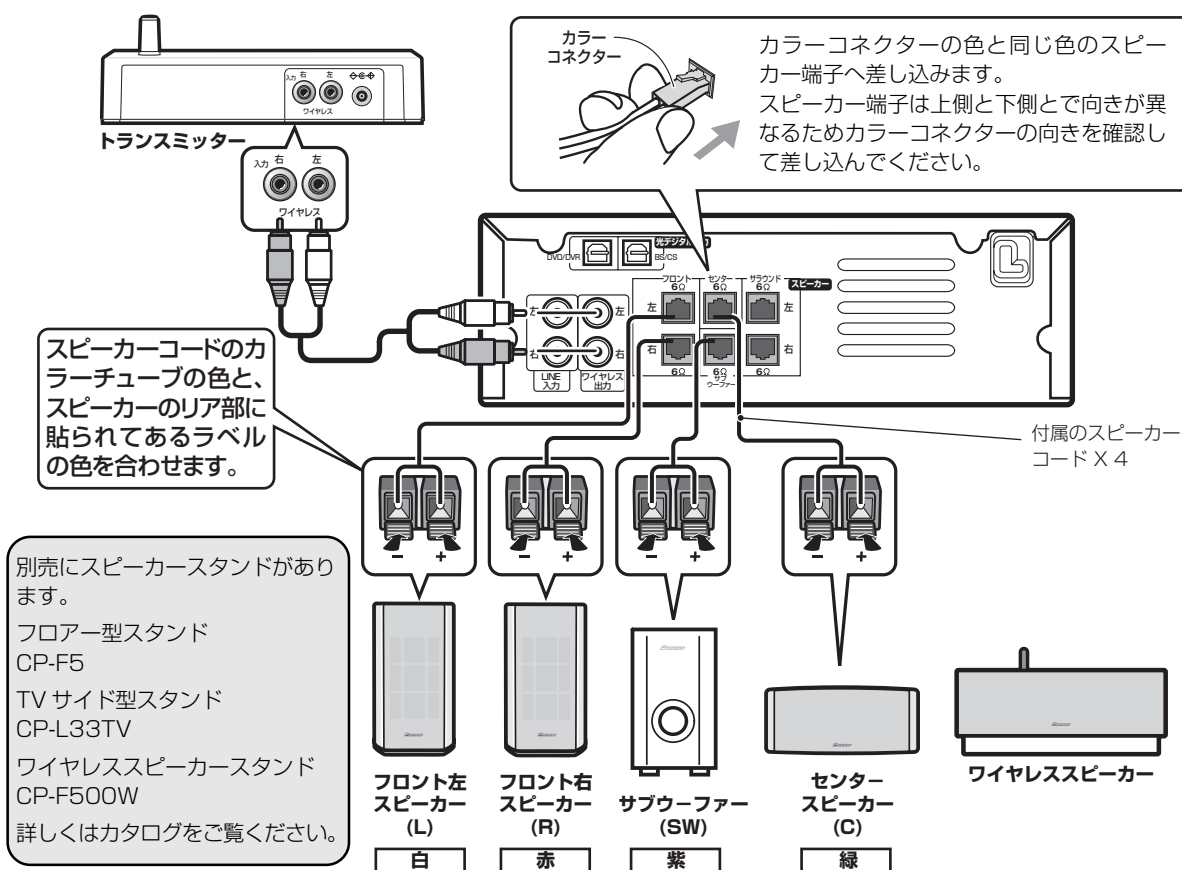
別売にスピーカースタンドがあります。

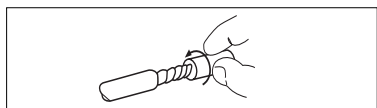
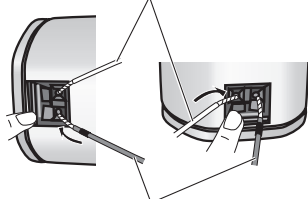
フロアー型スタンド
CP-F5

TV サイド型スタンド
CP-L33TV

ワイヤレススピーカースタンド
CP-F500W

詳しくはカタログをご覧ください。

フロント左スピーカー (L)	フロント右スピーカー (R)	サブウーファー (SW)	センタースピーカー (C)	ワイヤレススピーカー
白	赤	紫	緑	

スピーカーコードの接続

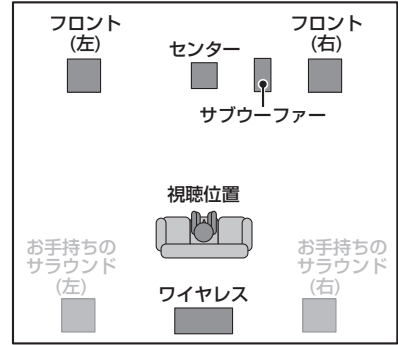
① コードの被覆を回しながら引き抜きます。

② スピーカー端子のツメを押しながら、スピーカーコードを差し込みツメを元に戻す。

注意

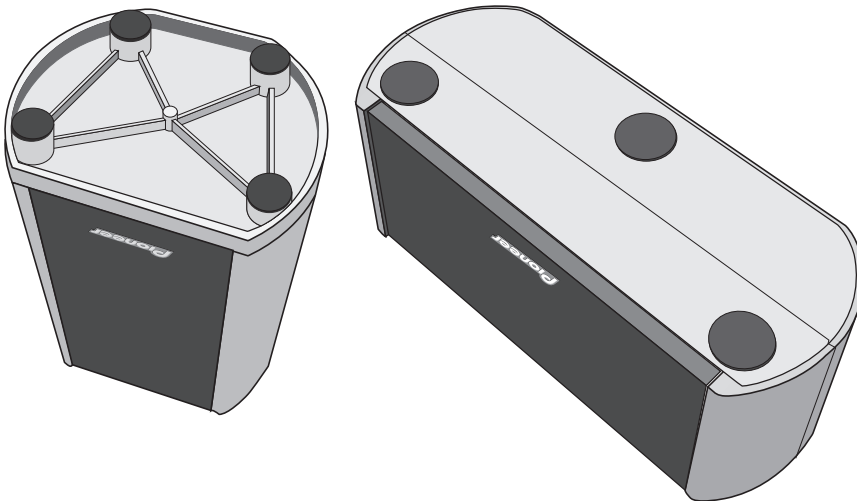
- 付属のスピーカーを本システム以外のアンプに接続しないでください。故障・火災の原因となることがあります。
- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30 分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをさらに離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- スピーカーコードの芯線をねじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してねじってください。はみ出した線があると、芯線どうしが触れてしまいアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- 端子に接続したあとコードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。

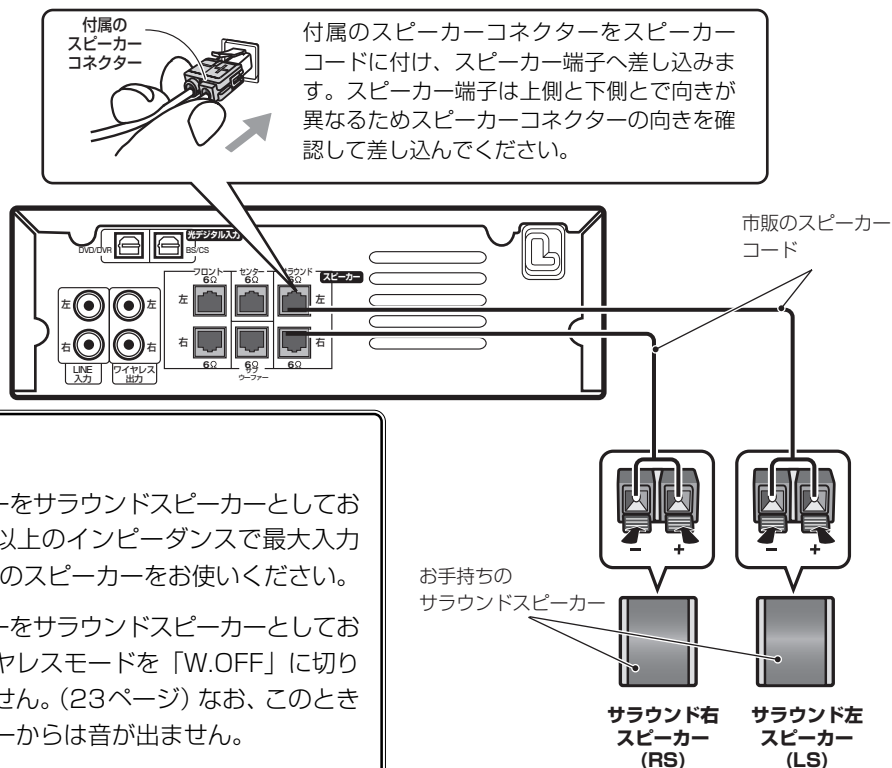
メモ

▼ **スピーカーの配置について**

サラウンド効果を最大限に引き出すため、右の図のように各スピーカーを設置してください。

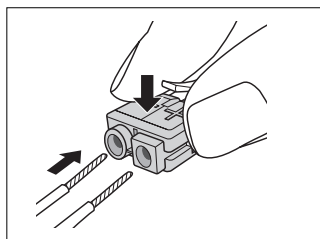
- 左右に置いたスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- センタースピーカーはテレビの下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。もしセンタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。
- ワイヤレススピーカーを視聴位置(リスニングポジション)から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果が不十分なときは「特定のスピーカーの音量を調整する(チャンネルレベル)」(36ページ)をご覧になりRS(サラウンド右)、LS(サラウンド左)チャンネルレベルを調整してください。特にワイヤレススピーカーを床に設置しているときはチャンネルレベルの調整が効果的です。
- ワイヤレススピーカーは視聴位置(リスニングポジション)の真後ろ(中央)または床に設置してください。またワイヤレススピーカーは耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さよりも上に設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。
- ワイヤレススピーカーは、テレビとの近接使用ができませんのでテレビから離してご使用ください。また、磁気に影響のある製品や機器(フロッピーディスクやビデオ、カセットテープなど)からも離してお使いください。
- フロントスピーカーとサブウーファーは視聴位置から等距離になるように設置してください。
- お手持ちのサラウンドスピーカーをお使いのときは、上図のように設置してください。

滑り止めパッドの使いかた

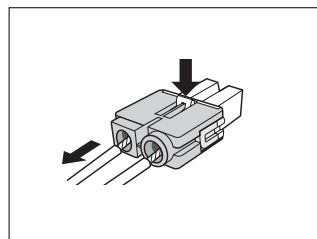
滑り止めパッドを紙からはがし、フロントスピーカーの底面の角４カ所（滑り止めパッド小を使用）、センタースピーカーの底面の角３カ所（滑り止めパッド大を使用）に貼り付けてください。

お手持ちのサラウンドスピーカーとの接続

お手持ちのサラウンドスピーカーを接続し、より迫力あるサラウンド再生をお楽しみいただくことができます。

メモ

- ▼ お手持ちのスピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いのときは、6 Ω以上のインピーダンスで最大入力35W（JEITA）以上のスピーカーをお使いください。
- ▼ お手持ちのスピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いのときは、ワイヤレスモードを「W.OFF」に切り換えないと音が出ません。(23ページ) なお、このときワイヤレススピーカーからは音が出ません。
- ▼ お手持ちのスピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いのときのスピーカー配置については、15ページをご覧ください。

付属のスピーカーコネクターの使い方

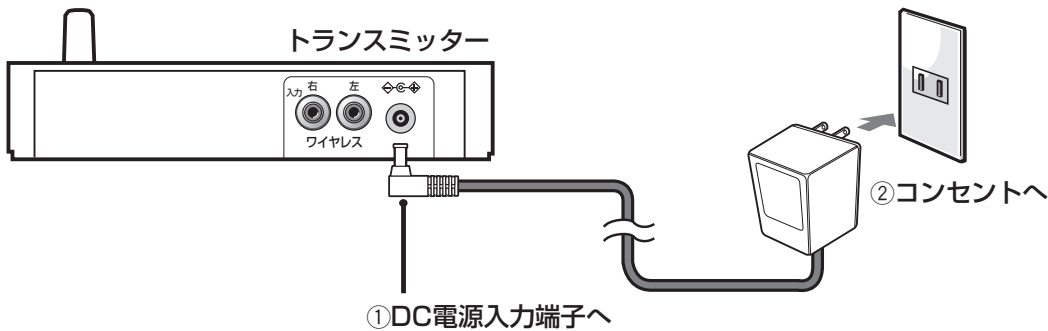
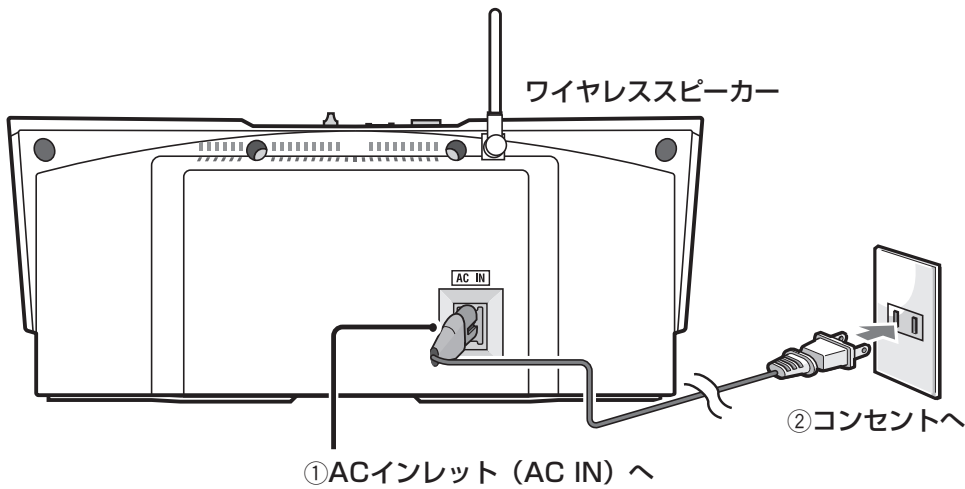
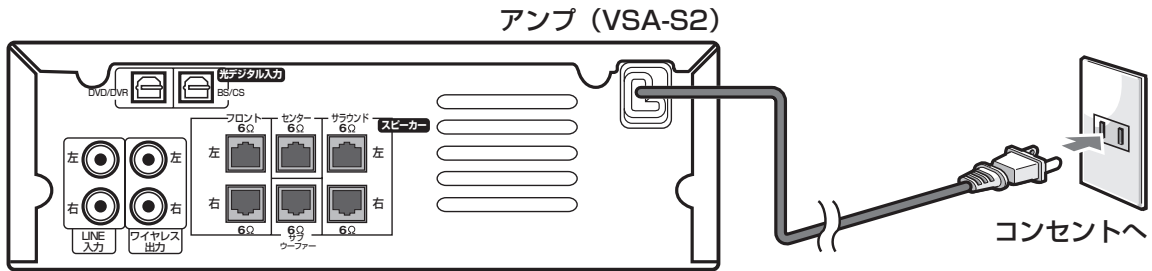
スピーカーコネクターを付けるとき

スピーカーコネクターの⊕⊖表示がある方を上にしてテーブルなどの平らな面に押しあてます(平らな面にしっかりと接地し、白いツメが押し込まれるように)。押しあてたままスピーカーコードを差し込みます。

スピーカーコネクターをはずすとき

⊕⊖表示がない方にある白いツメをスライドさせながら、スピーカーコードを矢印の方向へ引き抜きます。

注意

- スピーカーコードの芯線をねじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してねじってください。はみ出した線があると、芯線どうしが触れてしまいアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。

電源コードを接続する

すべての接続が終了してから、壁の電源コンセントに接続してください。

注意

- 旅行などで長期間本機を使用しないときは、必ず電源コンセントから電源コードを抜いてください。
- 約 1 週間以上、電源コードを電源コンセントから抜いた状態が続くと、設定が工場出荷時に戻ります。

基本操作

再生する(基本再生)

1 **テレビ、入力機器(DVD プレーヤーなど)の電源を入れる**

2 **本機の電源を入れる**

リモコン

本体

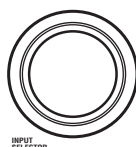
STANDBY/ON

- ⏻ 電源ボタンを押します。また、本体 ⏻ STANDBY/ON ボタンで電源を入れることもできます。

3 **入力を選ぶ**

リモコン

入力切換ボタンで選びます。右上の入力切換ボタンでも押すたびに入力が切り換わります。

本体

また、本体の入力切換つまみ(INPUT SELECTOR)を回して選ぶこともできます。

4 **テレビの入力を切り換える**

入力機器からの出力映像がテレビ画面に映し出されるようにテレビの入力を切り換えてください(テレビ放送を見るときは不要です)。

5 **入力機器の設定をする**

DVD プレーヤーなどでは、デジタル音声出力の設定が必要な場合があります。詳しくは『入力機器の設定を確認する』(次ページ)をご覧ください。

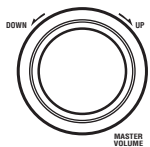
6 **入力機器の再生を開始する**

各インジケーターが点灯します。

7 **音量を調節する**

リモコン

本体

DOWN UP MASTER VOLUME

- 音量＋/－ボタンで調節します。また、本体の音量調節つまみ（MASTER VOLUME）を回して調節することもできます。
- [－－－](最小)～[0dB](最大)の間で調節します。
- 音が出ないときは、『故障かな？と思ったら』(41 ページ)をご覧ください。

メモ

▼ テストトーン、チャンネルレベル、またはルーム設定で各スピーカーの音量やチャンネルレベルを調整したとき、音量の最大値が[0dB]にならないことがあります。

入力機器の設定を確認する

入力機器の以下の項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。入力機器または再生するソフトの取扱説明書をご覧になり確認してください。

①入力機器のデジタル音声出力の設定

入力機器側でデジタル音声出力の設定ができるときは、以下の音声信号が出力されるように設定してください。『音声記録方式』(38ページ)もあわせてご覧ください。

- ドルビーデジタル
- DTS
- MPEG-2 AAC(BSデジタル)

②再生するソフトの音声の確認

複数の音声が収録されているソフトや複数の音声で放送されているテレビ番組などでは、必要に応じて聴きたい音声を選んでください。選んだ音声の種類やリスニングモード(25～27ページ)によって音の出るスピーカーが異なります。

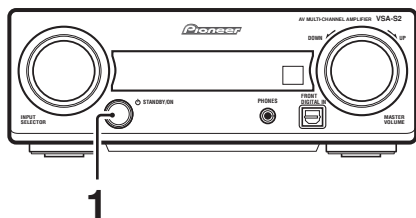
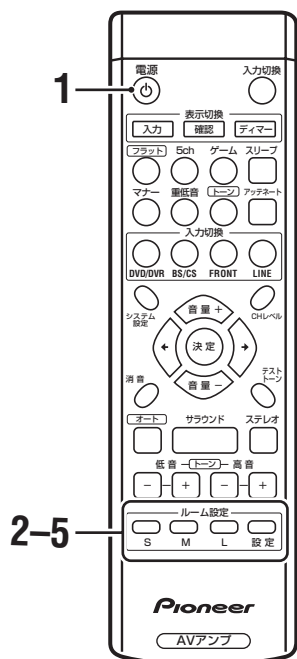
注意

入力機器や再生するソフトによって、2ch(アナログ、PCMなど)以外の音声信号を出力できないことがあります。2ch音声信号を本機に入力してマルチチャンネルサラウンドで楽しむときは、サラウンドモードを「MOVIE」、「MUSIC」、「PLO LOGIC」、「DOLBY VIRTUAL」などに切り換えてください(25～27ページ)。

メモ

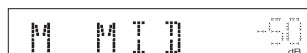
▼ ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCM（32kHz～96kHz）以外のデジタル信号は本機では再生できないことがあります。

ルーム設定

視聴位置(リスニングポジション)の「近くに置いたスピーカー」と「遠くに置いたスピーカー」とでは、そのスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさにズレが生じるため､適切なサラウンド効果を得ることができません。｢ルーム設定｣ では、お部屋のスピーカー配置に合わせて「部屋の大きさ(ルームサイズ)」と「視聴位置(リスニングポジション)」を選んで、聞こえる音のタイミングや大きさのズレを簡単に改善することができます。

1 本機の電源を入れる

⏻ 電源ボタンを押します。

2 ルーム設定モードにする

- 設定ボタンを押します。
- 工場出荷時はルームサイズ＝ M、リスニングポジション＝MIDに設定されています。

すでにルーム設定が行われているときは、現在の設定が表示されます。

- 設定後マニュアルでチャンネルレベルやスピーカーの距離などを設定したときは表示部に以下のように表示されます。

- 何も操作しない状態で 10 秒経過すると通常表示に戻ります。
- ルーム設定ボタン以外のボタンが押されると通常表示に戻ります。

3 ルームサイズを切り換える

(表示中に押す)

- 現在の設定を表示中に「S」、「M」または「L」ボタンを押します。

M MID? -50 dB

- 各サイズの目安はSが約8畳、Mが約10畳、Lが約15畳です。

4 リスニングポジションを切り換える

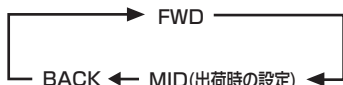
(表示中に押す)

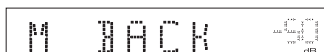
- 現在の設定を表示中に手順3で選んだ「S」、「M」または「L」ボタンを押します。

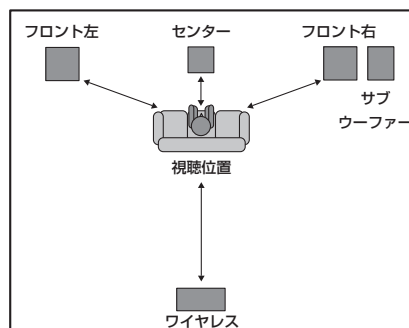
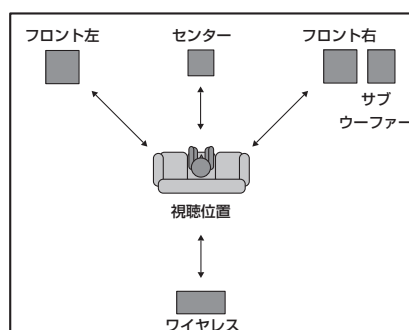
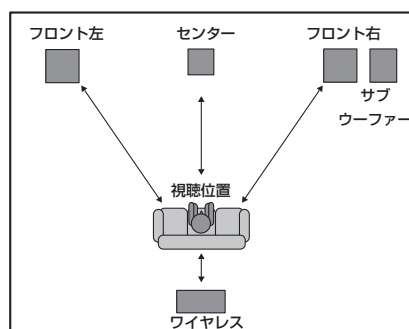
M BACK? -50 dB

- 押すたびに以下のように切り換わります。右図もあわせてご覧ください。

5 ルーム設定を終了する

(表示中に押す)

- 設定ボタンを押します。

サイズ＝M、ポジション＝BACKのとき

リスニングポジションについて

FWD(フロントスピーカーが近いとき)

MID(すべてのスピーカーがほぼ同じ距離のとき)

BACK(フロントスピーカーが遠いとき)

メモ

▼ルーム設定を行うときは、アンプ部のワイヤレスモードを「W.SURROUND」または「W.OFF」に切り換えて行ってください。(23ページ)
▼途中で設定を中止したときは、それまでの設定は無効になります(たとえば、ルームサイズのみを設定したときなど)。
▼ルーム設定では、以下の項目の設定値を切り換えています。
- 各スピーカーの音量(29ページ)
- 各スピーカーまでの距離(30ページ)

これらの項目を更に細かく設定して、より快適なサラウンド空間をつくり出すこともできます。ただし、これらの設定とルーム設定では、あとから行った設定値が優先されます。

サラウンド再生

リスニングモードの種類と効果について

本機では接続しているスピーカーの本数や再生するソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選ぶことができます。リスニングモードは各入力ごとに設定することができます。
ヘッドホンを使用する場合は、27 ページを参照してください。

オート (再生するソフトに忠実なリスニングモード) 5.1ch 2.1ch

オート(AUTO)
入力される音声のフォーマットに合わせて、再生するソフトに忠実なリスニングモードを自動的に選びます。2ch 音声で収録されたCDなどはステレオ（2.1ch）のまま、マルチ音声で収録された映画ソフトなどはマルチチャンネル（5.1ch）音声のまま楽しむことができます。

サラウンド（すべての音声をマルチチャンネルで楽しむ） 5.1ch

2ch 音声(ドルビーサラウンド、PCMなど)を入力しているとき、以下のモードから選ぶことができます。また、マルチ音声を入力しているときは、ドルビーバーチャルスピーカー（DOLBY VIRTUAL）のみ選ぶことができます。

- **ドルビープロロジック II ムービー(MOVIE)**
  2ch 音声を 5.1ch 化します。映画ソフトの再生に適したモードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品を視聴するとより効果的です。サラウンドスピーカーへのセリフなどの漏れ込み(クロストーク)を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1chサラウンドに迫るセパレーションや移動感などを得ることができます。
- **ドルビープロロジック II ミュージック(MUSIC)**
  2ch 音声を5.1ch化します。音楽ソフトの再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたCDなどを再生するときに効果的です。サラウンドスピーカーは定位よりも包囲感を重視しています。
- **ドルビープロロジック（PRO Logic）**
  2ch 音声を5.1ch化します。従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。
- **ドルビーバーチャルスピーカー（DOLBY VIRTUAL）**
  フロント左右のスピーカーだけで5.1chスピーカー構成システム同様のサラウンド効果を得られます。セリフは画面中央に定位し、音楽は前方から広がり、サラウンドの効果音も背後から聞くことができます。
  さらに、フロント左右のスピーカーの距離によって「Reference」「Wide」の 2 つのモードから選択できます。（31 ページ）

※ドルビーバーチャルスピーカーでは、マルチチャンネルと同様の効果を得ることはできますが、左右のスピーカーからしか音は出ません。

ステレオ (ステレオ再生) 2.1ch

- **ステレオ(STEREO)**
  あらゆる音声をステレオ再生(フロント 2 本のスピーカーとサブウーファーによる再生)します。

ワイヤレスモードを切り換える

ワイヤレススピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いいただくときは「W.SURROUND」を選びます。ステレオスピーカーとしてお使いいただくときは「W.STEREO」を選びます。お手持ちのスピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いいただくときは「W.OFF」を選びます。

注意

- ワイヤレススピーカーのWIRELESS MODEスイッチを「W.SURROUND」側に切り換え、本機のワイヤレスモードを「W.STEREO」に設定して音を出すと最大の音量で再生され、音量の調節が出来ない状態になりますので十分ご注意ください。この場合は再生を停止するか、ワイヤレススピーカーの電源ボタンを押して電源をオフにしてください。

サラウンドスピーカーとして使う

1 本機の電源をオフにして、ワイヤレススピーカーの電源もオフにする

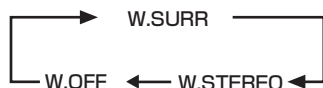
⏻ 電源ボタンを押します。

2 ワイヤレスモードを選ぶ

システム設定ボタンを押します。

3 ⬅ ➡で「W.SURROUND」を選んで決定する

決 定

- ⬅ ➡ ボタンで選択します。
- 以下のように切り換わります。

4 ワイヤレススピーカーのスイッチを「W.SURROUND」側にする

WIRELESS MODEスイッチを切り換えます。

5 本機の電源をオンにして、ワイヤレススピーカーの電源もオンにする

ステレオスピーカーとして使う

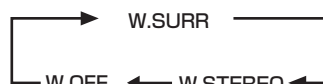
1 本機の電源をオフにして、ワイヤレススピーカーの電源もオフにする

⏻ 電源ボタンを押します。

2 ワイヤレスモードを選ぶ

システム設定ボタンを押します。

3 ⬅ ➡で「W.STEREO」を選んで決定する

- ⬅ ➡ ボタンで選択します。
- 以下のように切り換わります。

4 ワイヤレススピーカーのスイッチを「W.STEREO」側にする

WIRELESS MODEスイッチを切り換えます。

5 本機の電源をオンにして、ワイヤレススピーカーの電源もオンにする

6 ワイヤレススピーカーの音量はSTEREO MODE VOLUMEノブで、それ以外のスピーカーの音量は本機のMASTER VOLUMEまたはリモコンの音量＋/－ボタンで調整する

お手持ちのスピーカーを使う

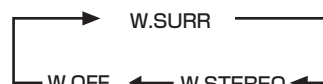
1 本機の電源をオフにして、ワイヤレススピーカーの電源もオフにする

⏻ 電源ボタンを押します。

2 ワイヤレスモードを選ぶ

システム設定ボタンを押します。

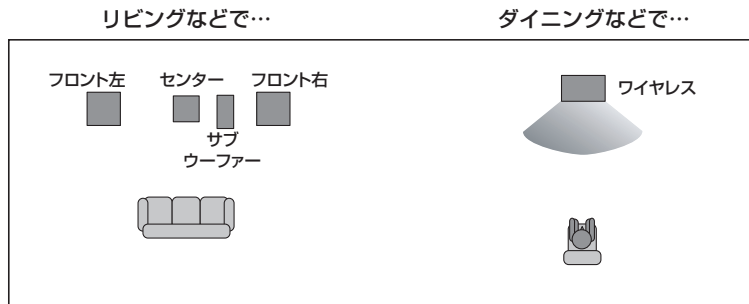
3 ⬅ ➡で「W.OFF」を選んで決定する

- ⬅ ➡ ボタンで選択します。
- 以下のように切り換わります。

メモ

▼ WIRELESS MODEスイッチが、「W.SURROUND」に設定されているときは、STEREO MODE VOLUMEノブで音量を調整することはできません。本機のMASTER VOLUMEで調整してください。

サラウンド再生

ステレオスピーカーとして使う設置

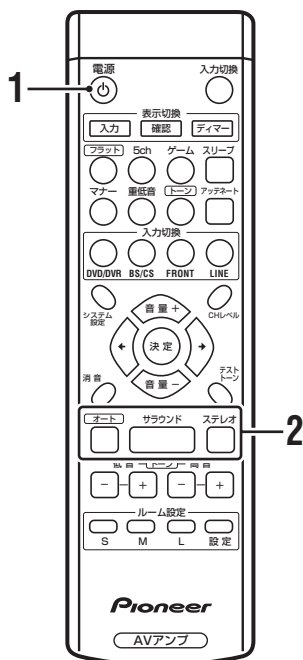
リビングなどで以下のような通常のスピーカー配置をしているとき、ワイヤレススピーカーをダイニングなどに持ち運び、ステレオ音声をお楽しみいただくことができます。ワイヤレスモードは「W.STEREO」に切り換えてください。

メモ

▼ ワイヤレスモードが「W.STEREO」の場合、センタースピーカーからは出力されません。

注意

- 使用中に電波の状態によって、音が途切れたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約10mまで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 mを保証するものではありません。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを 1 m以上離してお使いください。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物（金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など）があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

リスニングモードを選ぶ

ワイヤレスモードが W.SURROUND または W.OFF の場合

1 本機の電源を入れる

電 源

⏻ 電源ボタンを押します。

2 リスニングモードを選ぶ

選んだリスニングモードのインジケーターが点灯します。

「オート」を選ぶとき

- オートボタンを押します。

「サラウンド」を選ぶとき

サラウンド

- サラウンドボタンを押します。

2ch 音声で収録された CD などは、押すたびに以下のように切り換わります。

マルチ 音声のソフトは、収録されている音声(Dolby Digital/DTS/MPEG-2 AAC)を忠実にデコード(再生)し、押すたびに以下のように切り換わります。

「ステレオ」を選ぶとき

- ステレオボタンを押します。
- **2ch** 音声ソースはステレオのまま、**マルチ** 音声ソースは 2ch にダウンミックスされた音で再生されます。

メモ

- ▼工場出荷時は「オート」に設定されています。
- ▼「各入力」それぞれに独立してリスニングモードをメモリーすることができます。
- ▼96kHz/88.2kHzリニアPCM音声を再生しているときは「サラウンド」を選ぶことができません。「サラウンド」を選んでいるときに96kHz/88.2kHzリニアPCM音声が入力されると、自動的に「オート」に切り換わります。

サラウンド再生

ワイヤレスモードが W.STEREO の場合

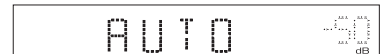
1 本機の電源を入れる

⏻ 電源ボタンを押します。

2 リスニングモードを選ぶ

選んだリスニングモードのインジケーターが点灯します。

「オート」を選ぶとき

- オートボタンを押します。
- **2ch** 音声ソースはステレオのまま、**マルチ** 音声ソースはドルビーバーチャルスピーカーで再生されます。

「サラウンド」を選ぶとき

サラウンド

- サラウンドボタンを押します。
- 本体表示部の ADV インジケーターが点灯します。
- 入力音声にかかわらず、ドルビーバーチャルスピーカーで再生されます。
- 表示部に「DOLBY VS」が表示されます。

「ステレオ」を選ぶとき

ステレオ

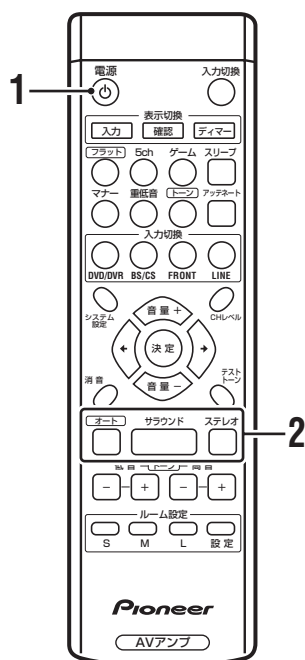
- ステレオボタンを押します。
- **2ch** 音声ソースはステレオのまま、**マルチ** 音声ソースは 2ch にダウンミックスされた音で再生されます。

STEREO -50 dB

メモ

▼ 工場出荷時は「オート」に設定されています。
▼「各入力」それぞれに独立してリスニングモードをメモリーすることができます。
▼ 96kHz/88.2kHzリニアPCM音声を再生しているときは「サラウンド」を選ぶことができません。「サラウンド」を選んでいるときに96kHz/88.2kHzリニアPCM音声が入力されると、自動的に「オート」に切り換わります。

ヘッドホンの場合（ドルビー *ヘッドホンの設定）

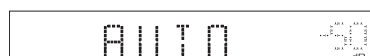
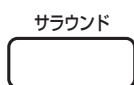
ヘッドホンで、部屋に置かれたスピーカーが再現されるような、5.1chさながらの臨場感を楽しむことができます。セリフは画面中央に定位し、音楽は前方に広がり、サラウンドの効果音も背後から聞くことができます。

1 **ヘッドホンプラグを差している状態で、本機の電源を入れる**

⏻ 電源ボタンを押します。

2 **リスニングモードを選択する**

選んだリスニングモードのインジケーターが点灯します。

「オート」を選ぶとき

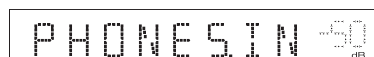
- オートボタンを押します。
- **2ch** 音声ソースはステレオのまま、**マルチ** 音声ソースはドルビーヘッドホンで再生されます。

「サラウンド」を選ぶとき

- サラウンドボタンを押します。
- 本体表示部のADVインジケーターが点灯します。
- 入力音声にかかわらず、ドルビーヘッドホンで再生されます。
- 表示部に「DOLBY H」が表示されます。

「ステレオ」を選ぶとき

- ステレオボタンを押します。
- **2ch** 音声ソースはステレオのまま、**マルチ** 音声ソースは2chにダウンミックスされた音で再生されます。

メモ

- ▼ 工場出荷時は「オート」に設定されています。
- ▼ ヘッドホンを挿入しているときに、テストトーン、チャンネルレベル、サウンドモードボタンを押すと以下の表示が点滅し、操作することはできません。

PHONES IN -50 dB

- ▼ PCM96/24kHzを再生しているときは、ドルビーヘッドホンは強制的にオフになり、設定の変更もできません。

サラウンド再生

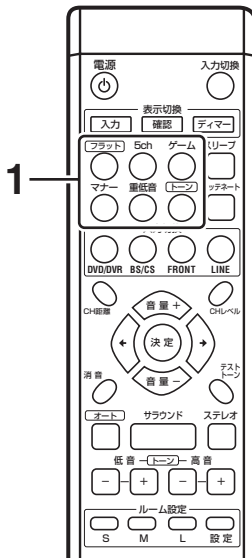
サウンドモードの種類と効果について

本機では、映画や音楽ソフトなどのあらゆる音声に対して、さまざまな音質を楽しむことができます。サウンドモードは各入力ごとに設定することができます。

サウンドモード(音質効果)

- **フラット(FLAT)**
  サウンドモードを OFF にして、周波数特性をフラットにします。
- **ゲーム(GAME)**
  ゲームのスピード感や躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなどの右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。
- **5ch(5ch STEREO)**
  標準のステレオ(2ch)音声を加工することなく、5ch で再生します。部屋のどの場所にいてもステレオ感を楽しむことができます。
- **重低音(S. BASS)**
  低音のレベルを上げて迫力ある再生にします。
- **マナー(MANNER)**
  キンキンする高音や、ドンドン響く低音を和らげて再生します。高音が鋭くて耳につくときや、低音が大きすぎて不快なときなどに効果的です。
- **トーン(TONE)**
  「高音 / 低音を調整する」で設定された音質にします。(33 ページ)

メモ

▼「5ch」を選択しているときに、ドルビーデジタルや DTS、MPEG-2 AAC 信号、96 kHz PCM 信号が入力されるとサウンドモードが自動的に「フラット」に切り換わります。
▼ ワイヤレスモードを「W.STEREO」に選択した場合、「5ch STEREO」は働きません。

サウンドモードを選ぶ

1 サウンドモードを選ぶ

- 設定したいサウンドモードのボタンを押します。
- 本体表示部の SOUND インジケーターが点灯します。

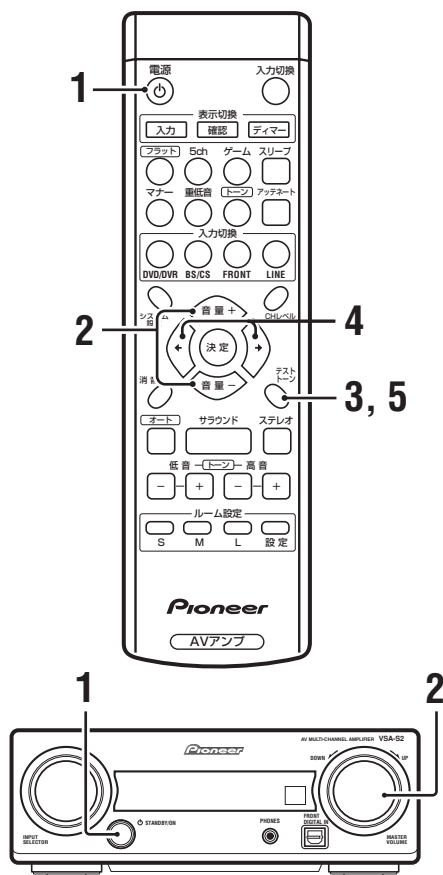
メモ

▼ 工場出荷時は「フラット」に設定されています。
▼ ヘッドホンを挿入しているときは、サウンドモードを選択することができません。

サラウンドの設定

お手持ちのシステムやお部屋の環境に合わせて細かな設定をすると、より快適なリスニング環境をつくることができます。ここでの設定はルーム設定で調整した内容と同じです。ルーム設定よりも細かく設定したいときに以下の設定を行ってください。

各スピーカーの音量を調整する

すべてのスピーカーの音量のバランスを調整することができます。ただし各スピーカーの音量を調整したあとに『ルーム設定』(20 ページ)を変更すると、ルームサイズに応じた音量バランスが優先されます。

1 本機の電源を入れる

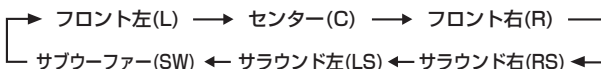
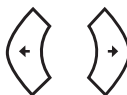
⏻ 電源ボタンを押します。

2 音量を調節する

音量＋/－ボタンでお好みの音量に調節します。

3 テストトーンを出力する

- テストトーンボタンを押します。
- ザーという音が以下の順番で出力されます。

フロント左(L) → センター(C) → フロント右(R) → サラウンド右(RS) → サラウンド左(LS) → サブウーファー(SW) → フロント左(L)

4 テストトーンが出力されているスピーカーの音量を調整する

- ⬅ ➡ ボタンで調整します。
- 各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調節します。音量は± 10dB の範囲で調節することができます。

5 テストトーンを止める

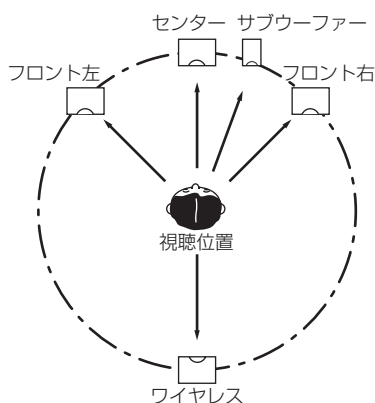
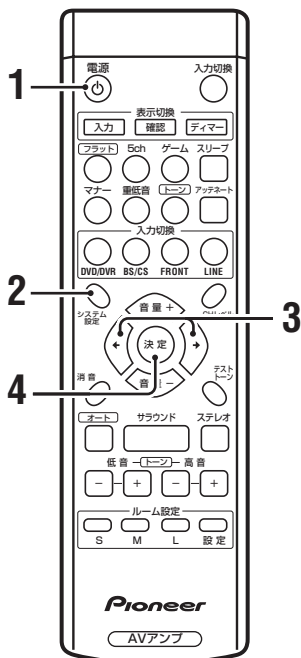
- テストトーンボタンを押します。
- 音量の調節が終了します。

メモ

▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いため実際の音量より小さく聞こえます。
▼ サブウーファーの音量は音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながら、適切な値に調節してください。
▼オートモードでテストトーンを出力したときは、再生しているソースによらず、5.1ch 用の設定値が表示され、調整することができます。
▼ ワイヤレスモードの切り換えが「W.STEREO」になっているときは、ワイヤレススピーカーからはテストトーンが出ません。「W.SURROUND」に切り換えてください。
▼ ヘッドホンを挿入しているときはテストトーンの出力の音量を調整することはできません。

サラウンドの設定

各スピーカーまでの距離を調整する

リスニングポジション(視聴位置)からフロント／センター／ワイヤレス（サラウンド）スピーカー／サブウーファーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。ただし各スピーカーまでの距離を調整したあとに『ルーム設定』(20ページ)を変更すると、ルームサイズに応じた距離が優先されます。

1 本機の電源を入れる

⏻ 電源ボタンを押します。

2 各スピーカーの距離の設定モードを選ぶ

押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。

フロントスピーカーのとき

FRNT : 3.0m -50 dB

センタースピーカーのとき

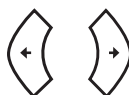
CENT : 3.0m -50 dB

サラウンドスピーカーのとき

SURR : 3.0m -50 dB

サブウーファーのとき

SW : 3.0m -50 dB

3 各スピーカーまでの距離を設定する

- ⬅ ➡ ボタンで調整します。
- 0.3m～9mを0.3m間隔で設定することができます。

4 設定を終了する

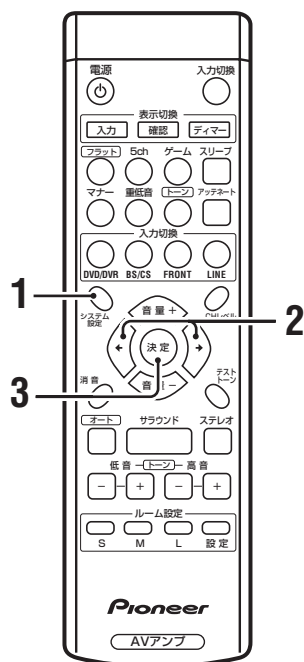
決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ

▼ 10秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

応用操作

ドルビーバーチャルスピーカーの設定

サラウンドモードの「ドルビーバーチャルスピーカー（DOLBY VIRTUAL）」（22、26ページ）は左右のスピーカーの距離によって以下の２つのモードから選択でき、より高い効果を得ることができます。

1 ヘッドホンプラグを差していない状態で、システム設定を選ぶ

- 以下が表示窓に表示されるまでシステム設定ボタンを押します。

VIRT. REF

- ADV インジケーターが点灯します。

2 ドルビーバーチャルスピーカーの設定モードを選ぶ

- ⬅ ➡ ボタンで選択します。

- Reference
  前方定位の幅が2本のスピーカーの距離で決まります。
- Wide
  ２本のスピーカーの幅が狭いときに、前方定位に広がりと空間を持たすことができます。

3 設定を終了する

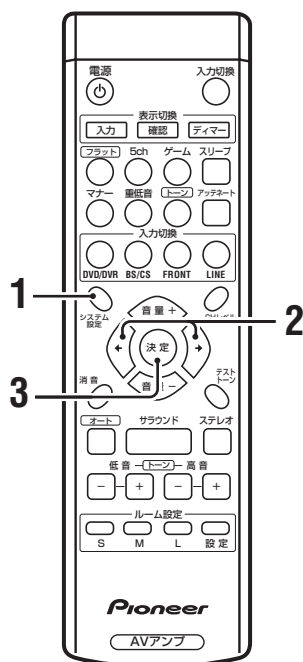
決定ボタンを押して終了します。

メモ

▼ 工場出荷時は「Reference」に設定されています。
▼ PCM96/24kHzを再生しているときは、ドルビーバーチャルスピーカーは強制的にオフになり、設定の変更もできません。
▼ 再生する音声によっては効果の少ないものがあります。

ダイナミックレンジコントロールの設定

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

DRC OFF ：ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
DRC ON ：ダイナミックレンジを圧縮します。

1 システム設定を選ぶ

以下が表示窓に表示されるまでシステム設定ボタンを押します。

DRC : OFF

2 ダイナミックレンジコントロールの設定を選ぶ

⬅ ➡ボタンで調整します。

3 設定を終了する

決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

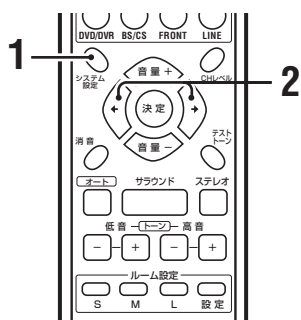
メモ

▼ 小さい音量で楽しむ場合は、ON に設定することをお勧めします。
▼ この設定はダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソースのみ効果があります。

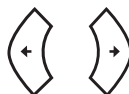
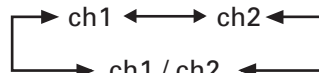
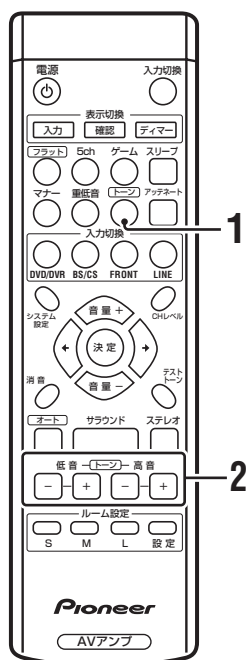
デュアルモノの設定

モノラルの音声チャンネルを２つ持つデジタル信号のことを1+1 デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は、以下のようなMPEG-2 AACやドルビーデジタルの1+1 デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

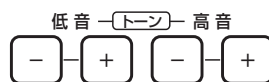
- **BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など**
  ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- **二か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの**
  録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくはDVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1　：チャンネル１の音声のみを再生するとき選びます。
ch2　：チャンネル２の音声のみを再生するとき選びます。
ch1/ch2　：チャンネル1/チャンネル2の音声をそれぞれ左/右のフロントスピーカーから分けて再生するとき選びます。

1 システム設定を選ぶ

以下が表示窓に表示されるまでシステム設定ボタンを押します。

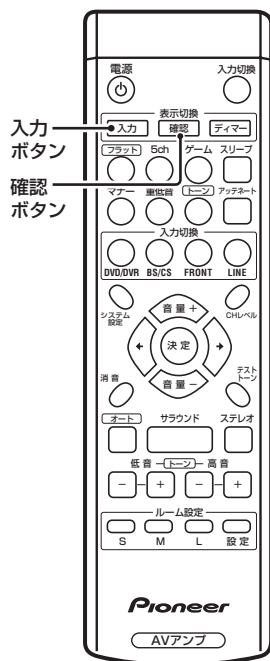
2 再生する音声チャンネルを選ぶ

押すたびに以下のように切り換わります。

高音／低音を調整する（トーンコントロール）

1 トーンコントロールモードを選ぶ

- トーンボタンを押す。
- 本体表示部のSOUNDとTONEインジケーターが点灯します。

2 高音、低音を調整する

- 高音を調整するときは高音＋／－ボタンを押す。
- 低音を調整するときは低音＋／－ボタンを押す。
- 高音、低音それぞれ± 10dBの範囲内、2dBステップで調整できます。

メモ

▼ トーン調整中に５秒以上、何も操作がない場合は通常表示に戻ります。

入力信号やリスニングモード、サウンドモードを確認する

入力信号を確認する

1 入力信号を確認する

- 入力ボタンを押します。
- 押すたびに現在の入力表示と入力信号の種類の表示が切り換わります。

メモ

▼ LINE 入力を選択しているときは、入力信号の種類の表示で「ANALOG」以外が表示されることはありません。

▼ ドルビーバーチャルスピーカー再生時は「DOLBY VS」、ドルビーヘッドホン再生時は「DOLBY H」と常に表示されます。

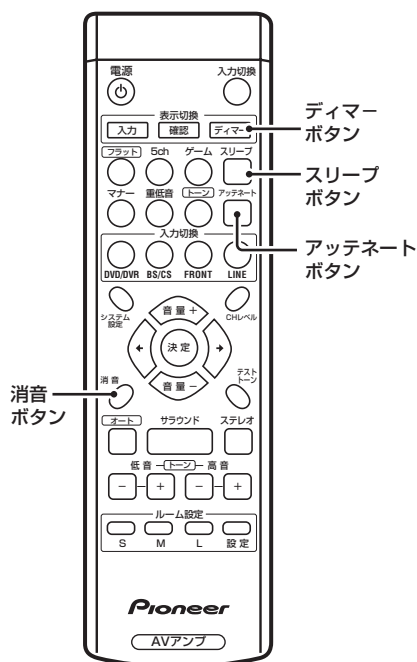
リスニングモード、サウンドモード、ワイヤレスモードを確認する

選択されている入力に設定されたリスニングモード、サウンドモード、ワイヤレスモードを表示、確認することができます。

1 リスニングモード、サウンドモードを確認する

確認

- 確認ボタンを押します。
- 押すたびにリスニングモード、サウンドモード、ワイヤレスモードを表示します。（22 ～ 28 ページ）
- 5 秒間、何も操作がない場合は元の表示に戻ります。

その他の機能

一時的に音を消す(ミュート)

1 音を消す(ミュートする)

- 消音ボタンを押します。
- 一時的に音が消えます。再度押すと元の音量に戻ります。音量＋/－ボタンでもミュートを解除することができます。

ワンタッチで音量を下げる

1 音量を下げる

- アッテネートボタンを押します。
- 0dB ～－ 64dB は「－ 65dB」、－ 65dB 以下は「－－－」と表示されます。
- 元の音量に戻すには音量+ボタンを押してください。

表示部の明るさを調整する(ディマー)

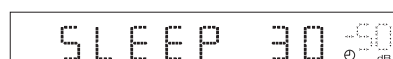
1 表示部の明るさを調整する

- ディマーボタンを押します。
- 押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」の３段階で切り換わります。

スリープタイマーを設定する(スリープ)

時間を設定して自動的に電源を切ることができます。

1 タイマーを設定する

- スリープボタンを押します。
- スリープインジケーターが点灯します。

- 押すたびに時間が「30分後」「60分後」「90分後」「OFF」の４段階で切り換わります。

メモ

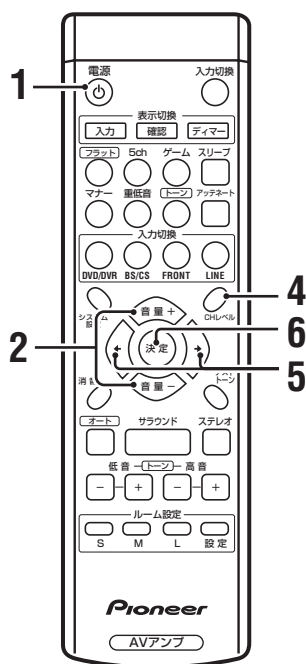
▼スリープタイマーを設定した後にスリープボタンを1回押すと、現在の残り時間が表示されます。表示中に再度スリープボタンを押すと再設定されます。

お使いになる前に
各部の名称とはたらき
接続
基本操作
サラウンド再生
サラウンドの設定
応用操作
その他

特定のスピーカーの音量を調節する(チャンネルレベル)

音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながらスピーカの音量を調節することができます。以下の手順で操作します。

1 本機の電源を入れる

電 源

⏻AV アンプボタンを押します。

2 音量を調節する

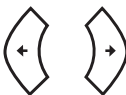
音量＋/－ボタンでお好みの音量に調節します。

3 入力機器の再生をする

4 調節するスピーカーを切り換える

CHレベル

- CHレベルボタンを押します。
- 押すたびにスピーカーが切り換わります。

5 スピーカーの音量を調節する

- ⬅ ➡ボタンで調整します。
- 1dB単位で－10～＋10dBの間で調節することができます。

6 設定を終了する

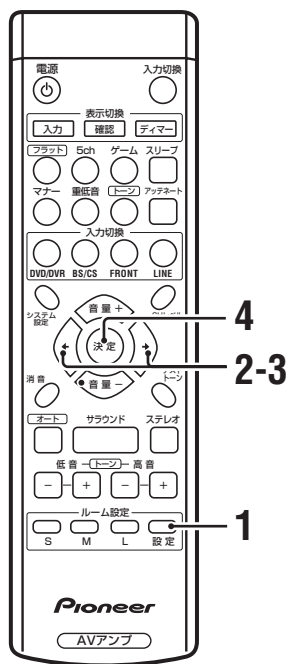
決 定

決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ

- ▼ CHレベルボタンを押してスピーカーの音量調節モードに入ったとき、10秒間何も操作が行われないとスピーカーの音量調節モードは自動的に終了します。
- ▼ チャンネルレベルを調整した後に、ルーム設定(20ページ)やテストトーンによる設定(29ページ)を行うと、その設定が優先されます。
- ▼ ワイヤレスモードの切り換えが「W.STEREO」になっているときは、ワイヤレススピーカーの出力レベルを調整することはできません。
- ▼ ヘッドホンを挿入しているときは出力レベルを調整することはできません。

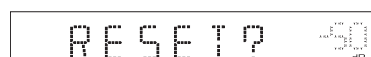
すべての設定を工場出荷時に戻す

本機のすべての設定を工場出荷時に戻します。この操作を行う前に、必要に応じて現在の設定を覚え書きして残しておくことをお勧めします。工場出荷時の設定については『工場出荷時の設定一覧』(40ページ)をご覧ください。

1 ルーム設定ボタンを押す

何も操作しない状態で10秒経過すると通常動作に戻ります。

2 ⬅ ボタンを押す

表示部に以下のように表示されます。

RESET? -50 dB

3 「RESET?」表示中に ➡ ボタンを押す

表示部に以下のように表示されます。

OK? -50 dB

4 「OK?」表示中に決定ボタンを押す

表示部に以下のように表示され、設定が工場出荷時に戻ります。

その他

用語解説

DVD ソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1 枚のディスクに複数の音声が収録されていることが多く、どの音声を聴くか選ぶことができます。

例）　③　1. 英　語 (5.1ch サラウンド)　DOLBY DIGITAL
2. 日本語 (ドルビーサラウンド)　
3. 英　語 (DTS 5.1ch サラウンド)　

収録音声数　記録方式　音声記録方式(フォーマット)

音声記録方式

ドルビーデジタル
DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラル信号(1ch)やドルビーサラウンド信号(2ch)などから5.1chサラウンド信号(現在の映画やDVDの記録方式の主流)まで網羅する柔軟性の高い方式です。5.1chソフトの各チャンネルには、独立した音声とLFEと呼ばれる低音がデジタルで記録されています。臨場感あふれるドルビーデジタルサラウンド再生を楽しむためにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS
デジタルシアターシステム (Digital Theater System)の略です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

PCM
Pulse Code Modulationの略で、圧縮していないデジタル音声です。CDの音声はほとんどこの方式で、DVDの標準音声フォーマットの1つでもあります。CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しむことができます。通常は2chで収録されています。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)
MPEG-2オーディオの標準方式の１つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

再生方式

マルチチャンネルサラウンド再生
３本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。3ch以上で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生は、すべてのスピーカーからそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックII再生に比べ､より立体感のある音場で迫力のある臨場感を楽しむことができます。

ドルビープロロジック II 再生
ドルビープロロジックは、2ch信号をサラウンド再生するための代表的なマトリックスデコード技術です。これをさらに改良したドルビープロロジックIIは(ステアリングロジック回路により)2ch信号を5.1chに拡張することができます。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感を実現します。

プロロジックとプロロジック II の違い

	プロロジック	プロロジック II
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンドモノラル)	5.1ch (サラウンドステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz 帯域制限	全チャンネル フルバンド

デコード

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです(2ch信号をドルビープロロジックII再生することをマトリックスデコードと呼ぶことがあります)。

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受（無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること）にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記 ② に示すような機器もあります。

① 2.4 GHz を使用する主な機器の例
- コードレスフォン
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレス AV 機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

② 存在がわかりにくい 2.4 GHz を使用する主な機器の例
- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音が途切れて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機の TUNED インジケーターが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。
- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する
- トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります。

- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります）
- テレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどアンテナ入力端子を持つ AV 機器の近くでトランスミッターを使用した場合、ワイヤレススピーカーの近くのテレビにノイズが出ることがあります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

●本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 分解 / 改造すること。
- 本機にはってある証明ラベルをはがすこと。

①「4」 想定される与干渉距離(約40m)を表します
②「XX」 変調方式を表します
③「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

●本機の使用する周波数帯域（2.4GHz）では、無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）及び、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。
本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

使用範囲について

●ご家庭内での使用に限ります。
(通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声が途切れたり停止したりします。

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。尚、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はしません。

その他

電波の反射について

●ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声が途切れたりすることがあります。

注意

お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

●高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。
電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

●航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しない。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
入力	DVD/DVR	18
音量	−74 dB	18
リスニングモード	オート(すべての入力)	25〜26
サウンドモード	フラット(FLAT)(すべての入力)	28
ワイヤレスモード	W.SURROUND	23
バーチャル設定	Reference	31
各スピーカーまでの距離	ルーム設定MID	30
CH レベル	ルーム設定M	36
表示部の明るさ調整(ディマー)	明るい	35
ダイナミックレンジコントロールの設定	OFF	32
デュアルモノの設定	ch1	33

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低８年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理の依頼ができない場合は修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」(次ページ)にしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店へご依頼ください。

修理を依頼されるときは、トランスミッターとワイヤレススピーカーを２つ１組としてご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名：5.1ch サラウンド・システム
- 型番：HTP-S2
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

保証期間中は…
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。
保証期間が過ぎているときは…
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

故障かな？と思ったら

思ったとおりに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具もあわせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのご相談窓口に修理を依頼してください。

「音が出ない」ときは、まず以下の①②を確認してください!

① **テストトーンを出力する(29 ページ)**
接続したすべてのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されているか確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続を見直してください。

② **入力信号とリスニングモードを確認する(34 ページ)**
入力ボタンを押して「入力している圧縮音声信号」を確認し、確認ボタンを押して「すべてのスピーカーから音が出るリスニングモードが選択されているか」を確認してください。思ったとおりに音が出ていないときは、以下のページをご覧ください。
『入力機器の設定を確認する』(19 ページ)
『リスニングモードの種類と効果について』(22 ページ)

上記 ①②を確認しても音が出ないときは、以下から43ページをご覧ください!

電源が入らないまたは電源が自動的に切れる

症状	原因	対策
自動的に本機の電源が切れる。	• 本機内部の温度が許容値を超えた。 • 放熱ファンの故障です。 • 本機の故障です。 • 音量が大きすぎる。 • スピーカーコードがショート(接触)している。	• 風通しを良くしてください。 • 修理を依頼してください(44 ページ)。 • 再び電源をONにしても電源が入らないときは、すぐに本機の使用を中止して電源コードを抜き、修理を依頼してください(44ページ)。この症状が起きたあとは電源のON/OFFを繰り返さないでください。 • 音量を小さくしてから電源を入れ直してください。 • スピーカーコードの芯線を再度しっかりねじり直して、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	原因	対策
音が出ない。	• 入力を再生機器に合わせていない。 • 音声が一時的に消音(ミュート)されている。 • 音量が小さくなっている。 • 接続したコード/ケーブルが端子から外れているまたは接続が間違っている。 • 接続したコード/ケーブルや端子のピンプラグが汚れている。	• 入力切換つまみ(INPUT SELECTOR)で入力を再生機器に合わせてください。 • リモコンの消音ボタンを押してください。 • 音量つまみ(MASTER VOLUME)で音量を調節してください。 • 接続を確認してください。 • 汚れを拭き取ってください。
デジタル接続している機器から音が出ない。またはノイズが出る。	• DVDプレーヤーのデジタル出力の設定がオフに設定されている。 • CD-ROMなどのデータ信号を入力している。	• DVD プレーヤーのデジタル出力の設定をオンに設定してください。 • 本機はデータ信号に対応していません。
フロント左 / 右スピーカー(チャンネル)から音が出ない。	• フロント左 / 右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)が左/右いずれかに偏っている。	• フロント左/右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整してください(36 ページ)。
サラウンド、ワイヤレスまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• サラウンドまたはセンタースピーカーの出力レベルが下がっている。 • サラウンドまたはセンタースピーカーの接続が外れている。または、接続を間違えている。 • 2ch 出力のサラウンドモード(「ステレオ」など)を選んでいる。 • 再生しているソフトやテレビ放送の音声が 2ch 分しか入っていない。 • ワイヤレススピーカーの音量が下がっている。 • ワイヤレススピーカーの TUNED インジケーターが点灯していない。	• スピーカーのレベルを上げてください(36 ページ)。 • スピーカーを正しく接続してください。 • マルチチャンネルのサラウンドモード(「MOVIE」など)を選んでください。 • 入力信号の種類にかかわらず、常にマルチチャンネル音声を聴きたいときは、マルチチャンネルのリスニングモード(「サラウンド」など)を選んでください。 • ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとしてお使いのときはSTEREO MODE VOLUME ノブで音量を上げてください。 • トランスミッターのチャンネル選択ボタンを押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。

その他

症状	原因	対策
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーの出力レベルが下がっている。 • 接続が外れている。 • 「サウンドモード」の「マナー」を選んでいる。	• サブウーファーの出力レベルを上げる(36 ページ)。 • サブウーファーを正しく接続してください。 • 「マナー」を解除してください。
ドルビーデジタルやDTS 音声などで収録されているソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	• アナログ音声が入力されている(DD / DTS インジケーター消灯)。 • DVD プレーヤーから DTS 音声が出力されていない。または DTS 出力が「オフ」に設定されている。 • デジタル音声の出力レベルが低い(出力レベル調整機能が付いている CD プレーヤーなどのとき)。	• 再生機器と正しくデジタル音声接続してください。 • DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTS 出力を「オン」に設定してください。 • 再生機器のデジタル音声の出力レベルを上げてください。
DTS 対応の CD プレーヤーでサーチするとノイズが出る。	• サーチ中に含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	• これは故障ではありません。サーチ中は本機の音量を小さくして、スピーカーから出る音を抑えてください。
音が歪む。	• 音量が大きすぎる。	• 本機の音量を小さくしてください。
96kHz/24bit の DVD ソフトを再生すると音が大きい。	• DVD ソフトに収録されている音量レベルが大きい。	• 本機の音量を小さくしてください。
映像が乱れる。	• 本機と干渉している。	• 映像が乱れているときはテレビから本機を離してください。
カセットデッキにノイズが入る	• 本機と干渉している。	• 本機またはカセットデッキの場所を変えてください。
テストトーンが出ないスピーカーがある。	• 接続が外れている。	• 正しく接続してください。

インジケーターが点灯しないまたは違うインジケーターが点灯するとき

症状	原因	対策
ドルビーデジタルまたはDTSなどのDVDソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	• 再生機器が停止または一時停止している。 • 再生機器の音声出力が間違って設定されている。 • 再生しているソフトの音声出力が間違って設定されている。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されていない部分を再生している(メニュー画面など)。	• 再生機器の再生を開始する。 • 再生機器の音声出力を正しく設定する。 • 再生している DVD ソフトの音声出力を正しく設定する。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されている音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BS デジタル放送をデジタル音声で聴いているときに AAC インジケーターが点灯しない。	• BSデジタルチューナー(またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ)の音声出力を PCM に設定している。	• BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧になり、MPEG(AAC)音声が出力されるように設定する。

その他

症状	原因	対策
リモコンが操作できない。	• リモコンの電池が消耗している。 • 本体との距離が離れすぎている。リモコンを向けている角度が範囲外である。 • リモコンとリモコン受光部の間に信号を遮る障害物がある。 • 蛍光灯などの強い光がリモコン受光部に当たっている。	• 電池を交換する(7 ページ)。 • 本体リモコン受光部から 7m 以内の範囲で操作してください(9 ページ)。 • 障害物を取り除いてください。または、操作する場所を変えてください。 • リモコン受光部に光が直接当たらないようにしてください。
表示が暗いまたは明るすぎる。	• 表示部の明るさの調整が適当でない。	• 表示部の明るさ(ディマー)を調整してください(35 ページ)。
設定がすべて工場出荷時に戻ってしまった。	• 約 1 週間以上電源コードを抜いたままにしていた。	• 約 1 週間以上電源コードを抜いた状態にしておくと、設定が工場出荷時に戻ります。再度設定してください。
リモコンの CH レベルボタンを押しても選べないスピーカーがある。	• 2ch 出力のサラウンドモード(「ステレオ」など)を選んでいる。	• マルチチャンネルのサラウンドモード(「MOVIE」など)を選んでください(25 ～ 27 ページ)。

ワイヤレススピーカー関係

症状	原因	対策
ワイヤレススピーカーの音声が途切れる。	• 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れすぎている。 • 電気雑音の発生しやすいところで使用している。	• 設置場所を変えてみてください。 • 電波の届く範囲でご使用ください。 • 設置場所を変えてみてください。
ワイヤレススピーカーの音声が突然途切れるようになった。	• 近くに同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器である、Bluetooth、無線LAN、コードレスフォン、ゲーム機のワイヤレスコントローラー、また電子レンジなどの機器が作動している。	• 設置場所を変えてみてください。または、トランスミッターのチャンネルを変えてみてください。同じ周波数帯を使用している機器も、チャンネル変更が可能なら、変えてみてください。
電源がオン状態のとき、POWERインジケーターが消灯する。	• 故障の可能性があります。	• お買い上げの販売店にご連絡ください。
トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。	• 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。 • 別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーを使用している。	• トランスミッターとワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。
トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。	• トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられているAV機器がある。	• トランスミッターをAV機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。

目的別索引

「目的(本機でやりたいこと)」から詳細が載っているページを探してください。

その他

修理のご相談／修理についてのお問い合わせ窓口

パイオニア製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理についてはお買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合は、窓口(裏表紙)へご相談くださるようお願いいたします。

サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、上記の修理受付センターでお受けします。
（沖縄県の方は沖縄サービスステーションでお受けします）

●サービスステーションの記載内容は、予告なく変更する場合がございますので、ご了承ください。
また、認定店は、不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は、修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区　受付　月～金　９：３０～１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

名称	FAX	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822 札幌市中央区北２条西 20-1-3 クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831 旭川市旭町１条１丁目 438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015 帯広市西５条南 28 丁目 1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811 函館市富岡町 2-18-7

●東北地区　受付　月～金　９：３０～１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

名称	FAX	住所
☆仙台サービスステーション	FAX 022-375-4996	〒981-3121 仙台市泉区上谷刈石田 20
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023 山形市松波 1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051 盛岡市下太田下川原 153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821 青森市勝田 2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802 八戸市小中野 4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802 秋田市外旭川字梶の目 346-1
郡山サービスステーション	FAX 024-934-6566	〒963-8861 郡山市鶴見坦 1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第２ビル

●関東・甲信越地区（１）　受付　月～土　９：３０～１８：００（日・祝・弊社休業日は除く）

名称	FAX	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032 世田谷区代沢 4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011 墨田区石原 4-27-9 中島 IC ハイツ 1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083 板橋区徳丸 4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003 立川市栄町 4-18-1 エクセル立川１Ｆ

●関東・甲信越地区（２）　受付　月～金　９：３０～１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

名称	FAX	住所
新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913 新潟市鐙 1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209 佐渡市金井町千種 1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0015 千葉市稲毛区作草部 1369-1 椎の実ハイツ 1F
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045 つくば市梅園 2-2-6
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844 水戸市住吉町 307-4
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812 さいたま市北区宮原町 1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804 川越市下広谷 1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912 宇都宮市石井町 3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801 伊勢崎市宮子町 1191-17 パサージュ 808 伊勢崎 101 号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037 横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-18-1 ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036 横浜市都筑区勝田南 1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807 厚木市金田 339-1 金田コーポフロンテア 201
三宅島サービス指定店 勝見電機	TEL 04994-6-1246	〒100-1211 三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX 0263-48-2768	〒390-0852 松本市大字島立 180-5
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935 長野市中御所 1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035 甲府市飯田 4-9-14

●中部地区　受付　月～金　９：３０～１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

名称	FAX	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063 名古屋市西区押切 2-8-18
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821 津市垂水 522-5
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931 岡崎市大和町字荒田 36-1 大和ビレッジ B-1
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356 岐阜市六条江東 1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034 静岡市高松 1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 0559-21-9050	〒410-0058 沼津市沼北町 1-14-26
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042 浜松市篠ヶ瀬町 415 ビラモデルナ５号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362 金沢市古府１丁目 178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211 富山市二口町 1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001 福井市大願寺 3-5-9

●関西地区

受付　月～金　９：３０～１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

☆大阪サービスセンター	FAX 06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町 5-8
大阪南サービス認定店	FAX 0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町 1-8-15　ローズマンション 1F
大阪北サービス認定店	FAX 06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中 3-9-4
奈良サービス認定店	FAX 0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町 21-26
和歌山サービス認定店	FAX 0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東 3-1-25
京都サービスステーション	FAX 075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条下ル小柳町 513-2　五条久保田ビル 1F
福知山サービス認定店	FAX 0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町 2-74　カマハチマンション
神戸サービスステーション	FAX 078-251-7173	〒651-0086	神戸市中央区磯上通り 5-1-13
姫路サービス認定店	FAX 0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土 4-2

●中国地区

受付　月～金　９：３０～１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

☆広島サービスステーション	FAX 082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町 2-30　第二有楽ビル 1F
徳山サービス認定店	FAX 0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町 3-11　森広事務所 1F
福山サービス認定店	FAX 0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町 3-12-9
岡山サービスステーション	FAX 086-244-8748	〒700-0975	岡山市今 8-15-21
松江サービス認定店	FAX 0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田 4-5-40　（有）テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX 0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町 5-240-1

●四国地区

受付　月～金　９：３０～１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）

高松サービスステーション	FAX 087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町 1-16-1
徳島サービス認定店	FAX 088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須 92-1　大松ジョリカ地下１階 103 号
高知サービス認定店	FAX 088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町 3-12-13　晃栄ビル１Ｆ
松山サービス認定店	FAX 089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津 5-10-35　商船ビル１Ｆ

●九州地区

受付　月～金　９：３０～１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

☆福岡サービスステーション	FAX 092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南 2-12-3
博多サービス認定店	FAX 092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田 2-6-7
長崎サービス認定店	FAX 095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和１丁目 12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX 096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立５丁目 14-17
大分サービス認定店	FAX 097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町５丁目 1-1
北九州サービスステーション	FAX 093-951-1748	〒802-0011	北九州市小倉北区重住 3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX 099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町 3-21　第二大見ビル２Ｆ
宮崎サービス認定店	FAX 0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町 98-1

●沖縄地区（沖縄県のみ）

受付　月～金　９：３０～１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービスステーション	TEL 098-879-1910 FAX 098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客 4-18-1　トヨタマイカーセンター３Ｆ

平成１６年５月現在

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店
または、お近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

仕様

アンプ部（VSA-S2）

実用最大出力(JEITA、1kHz、10%、6Ω)
フロント .... 35 W/CH
センター .... 35 W
サラウンド .... 35 W/CH
サブウーファー .... 35 W

入力端子(感度/インピーダンス) .... 200 mV/47 kΩ

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力 .... 135 W
スタンバイ時消費電力 .... 0.7 W
外形寸法 .... 210 X 78 X 321 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 4.5 kg

スピーカーシステム部（S-S2）

フロントスピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 10 × 7 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 90 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 105 X 157 X 83 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 0.8 kg

センタースピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 10 × 7 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 84 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 202 X 80 X 79 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 0.8 kg

サブウーファー
型式 .... バスレフ式フロア型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
ウーファー .... 13 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 35 ～ 3000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 150 X 258 X 329.5 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 3.5 kg

＊「防磁設計（JEITA）」とは、（社）日本電子機械工業会（JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-S2)

ワイヤレススピーカー
電源 .... AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 40 W
アンプ
最大出力（JEITA） .... 25 W/ch
（1 kHz, THD 10 %, 4 Ω）
スピーカーユニット .... 7 cm（コーン型）X 2
質量 .... 4.0 kg
外形寸法 .... 430 X 180 X 138 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
● 高さと奥行にアンテナは含まれておりません。

トランスミッター
AC アダプター
電源 .... AC 100 V、50/60 Hz
定格 .... 9 VA
定格出力 .... DC12 V/300 mA
消費電力（本体のみ） 2W
入力 .... RCA ジャック
質量 .... 0.3 kg
外形寸法 .... 166 X 56 X 112 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

付属品

アンプ部（VSA-S2）
リモコン 1
単３形乾電池(R6P) 2
光デジタルケーブル 1
スピーカーコネクター 2
保証書 1
取扱説明書（本書）

スピーカーシステム部（S-S2）
スピーカーコード 4
滑り止めパッド（小） 8
滑り止めパッド（大） 3
壁掛け金具 2
ネジ 4

ワイヤレススピーカーシステム部（XW-S2）
オーディオコード 1
AC アダプター 1
電源コード 1
コーションラベル 1

※ 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先）カスタマーサポートセンター：フリーダイヤル 0070-800-8181-22

http://www.pioneer.co.jp/support/

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名 ②ご購入日 ③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●ホームページ 「商品についてよくあるお問い合わせ」FAQのご案内　http://www.pioneer.co.jp/support/faq/ index.html

＜下記窓口へのお問い合わせの時のご注意＞市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００ （弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン ００７０－８００－８１８１－２２
一般電話　【一般電話】０３－５４９６－２９８６

●カタログ請求とメールマガジン登録のご案内　http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html

●ファックス受付　０３－３４９０－５７１８

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００ （弊社休業日は除く）

電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９５　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター

受付　月曜～金曜 ９：３０～２０：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００ （弊社休業日は除く）

電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２８（ゴーパイオニア）　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００ （土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　０９８－８７９－１９１０　ファックス　０９８－８７９－１３５２

VOL. 009

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<07H00001>　<ARA7253-A>